

次の文を読み、以下の問いに答えよ。

68 歳の女性。2 週間前、消化管間葉系腫瘍に対して開腹胃部分切除術を施行した。術後の経過は良好であったが、4 日前より創部痛と水溶性嘔吐が出現し来院した。生ものの摂取はない。海外渡航歴やペットの飼育歴もない。意識は清明。脈拍数 103/分。血圧 98/63mmHg。SpO₂ 96%。体温 38.1°C。呼吸数 20 回。腹部は平坦、軟。創部に異常はない。創部上方に持続性の自発痛と右季肋部に軽度の圧痛あり。反跳痛なし。

血液検査所見：赤血球 342 万/ μ l、Hb 10.3g/dl、白血球 19420/ μ l、血小板 6.2 万/ μ l、総蛋白質 7.2g/dl、アルブミン 3.3g/dl、AST 17 IU/L、ALT 10 IU/L、ALP 144 IU/L、 γ -GTP 22U/L、総ビリルビン 1.2mg/dl、直接ビリルビン 0.2mg/dl、BUN 10mg/dl、Cre 0.48mg/dl、Na 137mEq/L、K 3.3mEq/L、Cl 102mEq/L、CRP 10.9mg/dl、腹部 CT を図に示す。



(1) 治療として適切なものをどれか。2 つ選べ。

- a. 上部消化管内視鏡治療
- b. ヒスタミン H₂ 受容体拮抗薬
- c. 経皮経肝胆嚢ドレナージ
- d. 内視鏡的経鼻胆管ドレナージ
- e. 輸液

(2) 他に追加すべき血液検査項目はなにか。1 つ選べ。

- a. コリンエステラーゼ
- b. トランスフェリン
- c. 総コレステロール
- d. フィブリノゲン
- e. α -フェトプロテイン

次の文を読み、以下の問いに答えよ

62 歳男性。検診の消化管造影検査にて胃体部に隆起性病変を指摘され当院紹介受診した。上部消化管内視鏡を **図 1** に示す。病変の生検では高分化腺癌の診断であった。全身 CT では明らかな腫瘍性病変を認めなかった。

既往歴に大動脈解離術後と心房細動があり、家族歴に特記事項はない。

身長 175cm。体重 71.8kg。体温 35.1℃。入院時の所見は脈拍数 84bpm。血圧 128/67mmHg。意識は清明。眼瞼結膜の蒼白や黄染は見られない。腹部所は平坦、軟で圧痛はなし。

血液検査所見：赤血球 431 万/ μ l、Hb 13.4g/dl、白血球 4770/ μ l、血小板 19.7 万/ μ l
血液生化学所見：アルブミン 4.0g/dl、総蛋白質 6.9g/dl、AST 25 IU/L、ALT 22 IU/L、ALP 133 IU/L、 γ -GTP 30 IU/L、総ビリルビン 1.0mg/dl、直接ビリルビン 0.5mg/dl、BUN 19mg/dl、Cre 1.1mg/dl、Na 141mEq/L、K 3.8mEq/L、Cl 106mEq/L、CEA 1.1ng/ml、CA19-9 12U/ml

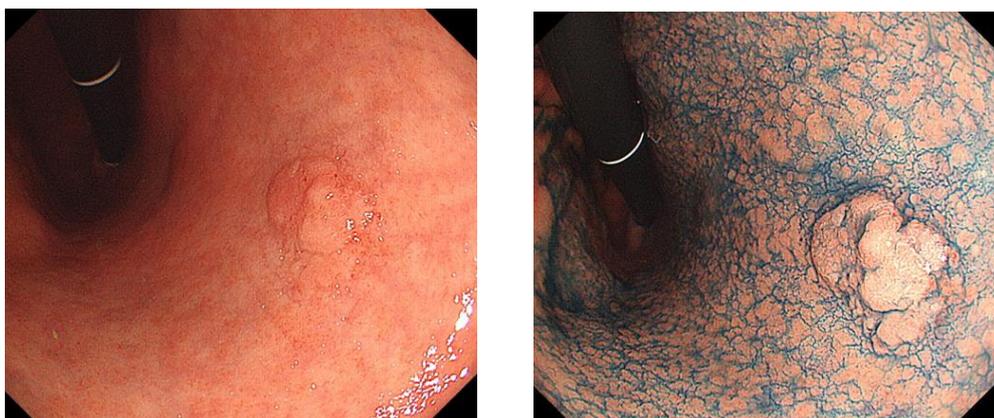


図 1

(1) この患者に行う検査として適切なものはどれか。1つ選べ。

- a. ICG 試験
- b. ヒスタミン遊離試験
- c. 迅速ウレアーゼ試験
- d. 喀痰細胞診
- e. BT-PABA 試験

(2) この隆起性病変の肉眼型分類と治療法について適切な組み合わせはどれか。

- a. 0-II a 型 - 内視鏡的粘膜下層剥離術
- b. 0-II a 型 - 胃部分切除術
- c. 0-II b 型 - 内視鏡的粘膜下層剥離術
- d. 0-II b 型 - 胃部分切除術
- e. 1 型 - 内視鏡的粘膜下層剥離術

回答

(1) c,e

(2) d

(1) c

(2) a